

教育委員会からのお知らせ

公民館特別事業 「みんなの願いはただひとつ」

特別展 ～いっしょに考えてみませんか～

期 日：平成23年8月3日（水）～17日（水）

会 場：下諏訪総合文化センター 展示コーナー

内 容：

- ・ 広島原爆資料館から借用した絵の展示及びビデオの視聴
- ・ 町内中学生の平和教育体験研修（広島県）の写真展示
- ・ 東日本大震災・長野県北部震災の被害状況写真の展示

私たちの生活を見直し、いざというときにはどうしたらよいか、考えましょう。



車山肩～八島ヶ原高層湿原 自然観察会 にご参加ください

日 時：8月20日（土） 午前7時 総合文化センター前出発（貸切バスで移動）

定 員：80名（町内在住の方を優先します）

参加費：500円（保険料・資料代等）

内 容：車山肩～物見石～八島ヶ原湿原のルートを、自然保護指導員・自然解説員の説明を聞きながらトレッキングします。

申込み：参加費を添えて、8月10日（水）までに直接下記窓口へお越しく下さい。

問合せ：下諏訪町教育委員会／生涯学習係（文化センター内） ☎27-1111（内線718）

下諏訪町産業振興課／商工観光係（町庁舎2階） ☎27-1111（内線272）

下諏訪観光振興局（儀象堂内） ☎26-2102

※詳しい内容については、班回覧のチラシをご覧ください。



町民大学 一下諏訪を学ぶ ③

演 題：下諏訪の文学<五> 「和田峠」を舞台とした文学

講 師：島木赤彦研究会長 小口 明

日 時：8月7日（日） 午後1時30分～午後3時

会 場：文化センター集会室

中山道随一の長くけわしい峠道「和田峠」は往来した人々はもとより、周辺住民のくらしの舞台、歴史に残る事件もいくつかあり、さまざまな文学作品に題材を提供。ちょっと探ただけでも、藤村・今井邦子・吉川英治・宇野浩二・新田次郎・吉村昭など、かなりの作家が作品舞台としている。五年次の今年は、こんな角度から下諏訪の文学を楽しみたい。

（講師コメント）

語り継いで しもすわ

しもすわに育ち生きた人々の
心に残る思い出や語り伝えたいこと



高浜 金子 敬二



ホンントウのようなウソのような話

前置き

a 身近な町内の場所

b ホントウ

c ウソのような（又聞きのため、ホンントウがあり肩唾もあり）

（体験や目撃、写真あり）

其の一

オオサンショウウオが東俣川に

a T温泉旅館の池

b 天然記念物オオサンショウウオが一匹。体長約一メートル。第二次大戦前から昭和十九年まで生存。当時としては（現在でもだが）下諏訪辺りに生き

たオオサンショウウオがいるとは。姿、形、大きさが珍しくて大勢の人目をひいた。学校の行きつ帰りつ立ち寄って、飽きもせず眺めた当時小学生の各位は思い出されることだろう。その後、命つきたオオサンショウウオは、県水産指導所でホルマリ

ンづけにして標本瓶に保管された。その時、信濃毎日新聞に、写真入りで掲載された。

c 捕獲当初は、親のつがいと子ども三匹だった。二匹残して、湖水に逃げ出してしまった。エ

ィ、ホンントウか？兎にも角にも評判になって、話は広がった。当時からオオサンショウウオは天然記念物である。当時、どこ

で発見し、どこで捕ってきたかが話題となって広がった。誰かが萩倉上の東俣川で捕縛したということにしたらしい。このことが、東京のT大学の先生方の耳に入った。諏訪にオオサンショウウオが棲息しているとなると、新発見大発見だということになり、大学の先生方の調査チームが下諏訪に乗り込み、T温泉旅館に何日か宿泊して確認しようとした。東俣川に日参したという。ついに発見ならず先生方は帰京。その後ウヤマヤになったというよりも、事実は誰も、ようとして口にしなかった。昭和初期であろうと、生きた天然記念物オオサンショウウオを無断で捕縛したとあらば手錠物だが、半世紀以上前の話にて、時効成立で許してもらえらるであろうが、関係者は全員故人になってしまった。ホンントウのようなウソのような話が、私の記憶に残った。

其の二 赤砂崎の飛行場

a 赤砂崎、艇庫の少々西寄り

b 上諏訪湖畔、片倉館の方向

を向く滑走路、格納庫の引き戸の破れ目から二枚羽根の灰色の単発機一機が見える。戦時中は黄色のは赤トンボの愛称。ここは当時、尋常小学校一年生の春の遠足の目的地になっていた。たまには湖上や盆地内の遊覧飛行をしていた。飛行士は何という人だったか。ご存じの方は大勢おられることと思われる。

c ある年、T旅館とプールの宣伝ビラをしこたま（たくさん）積み込んで伊那町（現伊那市）へ向かって飛び立った。途中、飛行士が言い出した。「早くビラを撒いてくれないと、飛行機が落ちそうだ。」宣伝ビラは途中の山中、森林の上に全部撒いてしまった。ホンントウのようなウソのような話が私のところに伝わってきた。

《注》赤砂の飛行場は、小林収吾さんの著書「よせなべ随筆」赤砂飛行場回想の頁に詳しく書かれている。

